

公益財団法人サカタ財団

第4期事業報告

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

1. 計算書類の概要

- (1) 当財団の2023年3月31日時点の貸借対照表は、以下の通りとなりました。
- ・資産の部は、「現預金」の残高が、期首5,946千円より、491千円増加し、6,438千円となりました。「現預金」残高の内訳は、管理運営積立金3,721千円、特定費用準備資金2,716千円となります。なお、特定費用準備資金は、奨学金給付資金の原資として積み立てたものとなります。
 - ・負債の部は、当期に発生した未払報酬等の計上に伴い、未払金274千円を計上しております。
 - ・正味財産の部は、指定正味財産20,000千円に一般正味財産6,191千円と合わせて、26,191千円となりました。
- (2) 当財団の2022年4月1日から2023年3月31日までの正味財産増減計算書は、以下の通りとなりました。
- ・経常収益は、有限会社ティーエム興産および株式会社サカタのタネから、それぞれ15,000千円、10,000千円の寄付金等により、25,000千円となりました。
 - ・経常費用は、事業費として、給付奨学金21,840千円、交流会開催に伴う接待交際費843千円等により、前期に比べ、357千円減の23,257千円となりました。また、管理費として、事務局員の給与420千円、賃借料165千円、通信費93千円等により、前期と比べ、188千円増の1,303千円となりました。経常費用合計は、前期と比べ、168千円減の24,561千円となりました。
 - ・したがって、当期経常増減額は、438千円となりました。

2. 事業報告

当期においては、期初において新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響が懸念されておりましたが、事業計画に従い、理事会・評議員会の開催、第4奨学生の募集活動・選考、当財団関係者と奨学生間の親睦・意見交換等を目的とした交流会の開催等、コロナ禍前と同様な取組みを実施することができました。

理事会、評議員会については、オンライン会議を併用しつつ、対面会議を再開することができ活発な意見交換がなされました。奨学生の募集活動・選考においては、前期同様、今期も大学訪問を休止いたしましたが、パンフレットや募集要項の郵送、電話による情報提供等の募集活動を展開いたしました。奨学生の選考では、オンライン面接を活用し、応募者の移動時間の負担軽減等に繋がり、多数の応募者との面接の機会を設けることができ、優秀な人材の発掘に繋げることができました。また、当財団設立当初より開催を予定しておりました交流会を開催することができ、第1期生から第4期生の皆さま、理事・評議員・選考委員の皆さま、総勢41名の参加となりました。

当財団の主たる事業である奨学金助成事業においては、前期末より第4期生の募集告知活動を開始いたしました。第4期生の募集より、大学生に加え、大学院生の応募対象を広げました。多くの大学関係者、学生の皆さまからお問い合わせをいただき、第4期奨学生の応募者数は、第3期奨学生の応募数88名を上回る289名(大学生123名、大学院生166名)となりました。書類選考及び面接選考の結果を踏まえ、選考委員会における審議の結果、第4期奨学生10名(大学生4名、大学院生6名)が決定され、2022年7月より奨学金の給付が開始されました。これにより、2023年3月末時点、奨学生は合計30名となりました。

なお、2023年3月より、第5期生の募集告知活動を開始いたしました。第5期生の募集では、引続き、重点告知大学として全国各地の有名国公立大学、私立大学41大学を独自に選定し、重点的に募集活動を行うとともに、当財団ホームページに募集要項等を掲載し、国内の大学・大学院への募集活動を展開しております。第5期生の募集人数は10名を予定しており、選考委員会等の審議を経て、2023年8月に決定する予定となります。